

ボランティア OAKA



豊中ボランティアフェスティバル

第12号

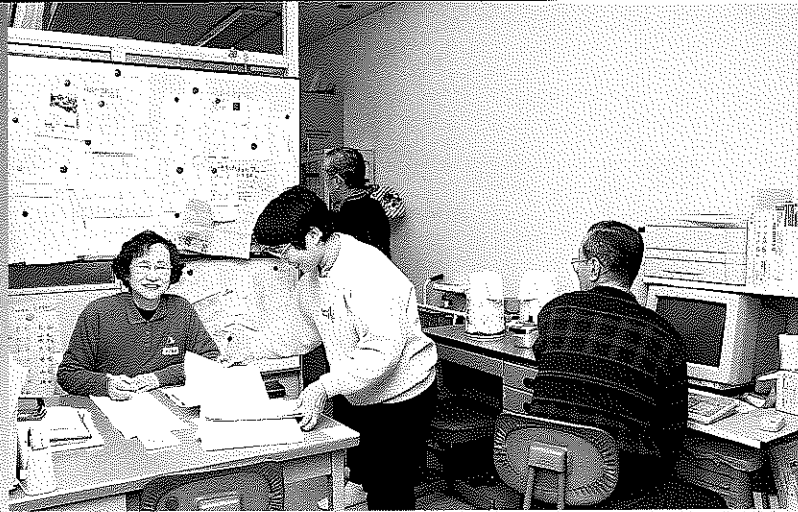
'98 / WINTER

●発行●

(福)大阪府社会福祉協議会
大阪府ボランティアセンター

特集

地域の高齢者を支える ボランティア活動



〔特 集〕

地域の高齢者を支える ボランティア活動

公的介護保険が成立し、いよいよこの新しい社会保険もスタートへのカウントダウンが始まりました。介護保険がめざすのは、言うまでもなく介護の社会化。しかしそれを実現していくためには、さまざまな基盤整備とともに、地域で活躍するボランティアの活動も不可欠です。そこで今回は、地域の高齢者を支えるさまざまなボランティア活動を紹介しながら、「介護の社会化」の現状と、今後の課題を探ってみたいと思います。

● 座 談 会 ●

自分たちが住み、
暮らしていく町だから

「介護ボランティア連絡会606会」

大東市の「介護ボランティア連絡会606会」は、大東市社協の登録介護グループの連絡会。昭和60年に、6人の主婦でスタートしましたが、現在では5つのグループに枝分かれし、メンバーも総勢約200人に膨れ上がっています。リハビリ介護ボランティアの「なかま」、在宅介護ボランティアの「しゃぼん」、難病介護ボランティアの「ふれあい」、そして送迎介護ボランティアの「よりそい」。

いまでは地域のお年寄りや障害者に欠かせない活動を展開する「606会」の皆さんに、その活動、ボランティアとしての熱い思いを語っていただきました。



〈参加者〉

矢谷 清 「よりそい」代表者
高野 昌勝 「しゃぼん」代表者
橋本 典子 「ふれあい」代表者
中尾 安子 「ほっと」代表者
森田 瑞子 「なかま」代表者
寺岡 洋子 事務局長
金森賢一郎 事務局
遠藤 克恵 事務局
木本マサ子 事務局
椎山真喜子 事務局
小山 泰男 事務局
橋本 博之

大東市社会福祉協議会
ボランティアセンター

(敬称略)

司会 大阪府

ボランティアセンター



矢谷 清さん



お母さんがおられ、お



〈大東市〉 介護ボランティア連絡会 606会

学生、会社員も参加する
送迎ボランティア

司会 本日は大東市社会福祉協議会を
拠点に活動されている、介護ボランテ
ィア連絡会606会の皆さんにお集ま
りいただきました。606会は5つの
グループで構成されているわけですが、
まずそれぞれの会長さんから、各グル
ープの紹介をしていただけますか。

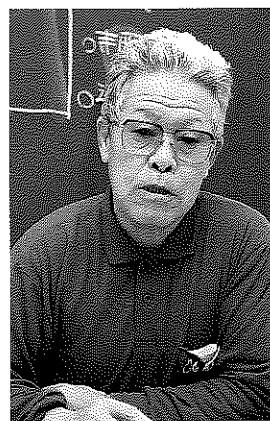
矢谷 「よりそい」は送迎介護をおこな
っているグループで、現在37名の登録
ボランティアがあり、市内に居住する
24名の方々の外出の際のお世話をし
ています。対象者はお年寄り、身体障害
者、難病者などですが、ボランティア
メンバーには若い人もおり、学生さん
が約10名ほど参加されている。また現
役の会社員の方も5名おられ、休みの
日などに活動していただいています。
対象者はほとんどが車椅子の方で、そ
んな皆さんを乗用車で病院や歯医者さ
んにお連れしたり、さまざまな福祉施
設での催しにお連れしたりするのが活
動の中心。しかし、ときには「今日は
寒そうだから話し相手だけでいいです
！」といわれることもありますね。

私自身はボランティアを始めてまだ
2年ほど。大阪府地域福祉推進財団の

老人大学やシルバー
ドバイザー養成講座を
受講し、地域で何かの
役に立ちたいと、皆
さんの仲間に入れてい
ただきました。対象者
の中には若い車椅子の

子さんの授業参観や懇談会へお連れし
ています。学校では、606会が持ち
込んだ階段昇降機で階段を車椅子ごと
昇降する様子に、児童の関心と視線を
あびることがあります。ともあれ皆さ
んとても喜んでくださり、それが私た
ちの励みにもなりますね。

高野 特設介護の「しゃぼん」は、平
成年にスタート。当時は機械入浴の
介助をしていましたが、その後、平成



高野 昌勝さん

6年2月に、全国浴場事業組合が行っ
た「福祉入浴」が活動の大きな転機と
なりました。これは行政と浴場組合が
タイアップしたモデル事業で、普段、
家の小さな風呂にしか入れない皆さ
んにとっても好評だったんです。そこ
で翌年の平成7年9月より、私たち独自
の事業として、福祉センターでの入浴
が始まりました。現在は月2回、福祉
センターでの入浴介護を中心にしなが
ら、個人宅に向いての入浴介助も行
っています。ボランティアは20名です
が、その中には70才以上が3人もい
るので大変(笑)。若い人にもっと加わっ
ていただきたと思っています。

基本的には、行政の福祉サービスを
受けていない人を対象にやっており、
お茶とお菓子を出ししたり、世間話の
相手もさせていただきます。

送迎介護ボランティア 「よりそい」 フットワークの軽さが大評判

「よりそい」は37人のメンバーで、利用者の派
遣依頼に応じて送迎介助を行っている。利用者
の希望に応じて送迎の頻度を決めたり、時には
話し相手になったりと、その活動はいたってフ
レキシブル。フットワークの軽さが大褒賞はれ、
非常に多くのリクエストが寄せられている。

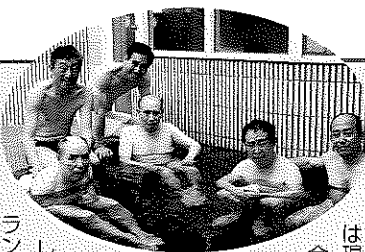
送迎介護は、車椅子の乗降など力仕事の部分
が多く、男性ボランティアが引つ張りだこの状
態。「平日の活動はやはり退職者が中心。利用者
と年齢がさほど違わないことも多く、大忙しの
時には腰を痛めそうですよ(笑)」と代表の矢谷
さん。また、送迎介護を行うことによって、利
用者の送迎先の施設で、よりそいのメンバーが
イベント手伝いやレクリエーション活動へ参加
することも増えており、そんなつながりから各
種団体の行事応援などへの要請も多い状況だ。
よりそいでは、今後とも一人でも多くの男性
にボランティア登録をしてもらいたいと考えて
いる。



特設介護ボランティア

「じゃぼん」

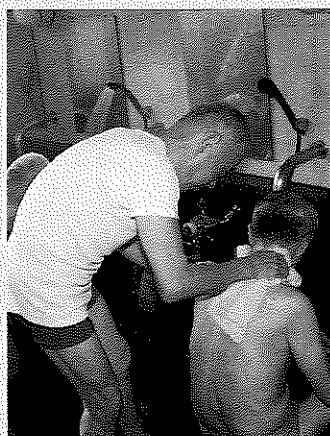
入浴の楽しみをより多くの人に



「じゃぼん」の活動の中心は、総合福祉センターの大きな風呂での入浴介助。利用者は現在10人前後。毎月第2、第4金曜が活動日だ。在宅で入浴介助を受ける利用者も5人ほどいる。

今まで行政サービスを受けたことのない人には、「人のお世話になる」ことへの躊躇がある。とりわけ入浴となると、その壁も厚くなる。しかし、じゃぼんの入浴介助は「ボランティアの年齢が利用者に近い点に親しみやすさを感じてもらって、介助を受けることへの抵抗感が少ないようです」と代表の高野さん。「市のサービスには行ったことがない人でも、私たちの介助なら気軽に体験してもらえ。ここで慣れてもらい、行政サービスにスムーズに橋渡しすることも私たちの役割のひとつです」。

入浴の楽しみを提供するじゃぼんの活動は、利用者にとって今やなくてはならないものになっている。



司会 メンバーの中には元看護婦さんもおられ、入浴の前には皆さんで血圧を計られるとか。

高野 そう。無償ボランティアであっても、やはり事故は避けねばなりませんから、そのあたりは慎重に取り組んでいるつもりです。

レクリエーションリーダーとしても活動

橋本 典子さん



橋本 「ふれあい」は難病介護ボランティアで、具体的にはパーキンソン病の皆さんのさまざまなお世話をさせていただいています。大東市には、パーキンソン病の皆さんとご家族の「ハッピー会」というのがあり、保健所や市と共に、その集いのお世話や、学習会の開催、当事者組織の連絡などが活動の中心となります。

パーキンソン病は多くの場合、運動障害と言語障害を伴います。ですからボランティアには車椅子の介助、トイレのお世話などいろいろな仕事があります。他にも、集いでさまざまなレクリエーションを企画するのも私たちの仕事。歌や踊り、ビンゴゲーム、福笑いなどを、レクリエーションリーダーとして取り組むことも少なくあり

ませんね。そんなときには、保健婦さんが手品を披露して協力してください。他にも、クリスマス会を開いたりすることも。現在、ボランティアは10名。みんなイキイキと活動に取り組んでいます。今後とも思いやりの心を持って進みたいと思います。

中尾 「ほっと」は94名の大所帯。他のグループと重複して登録している人もいますが、在宅のお年寄りの話し相手、外出援助、排泄のお世話、清拭、家事援助などを、2人ペアになって取り組んでいます。現在、地域の25人のお年寄りのお世話をしていますが、他に「野崎いこいの家」など、地域の福祉施設でのリハビリ介助などの活動も。

その他、総合福祉センターでは文化教室を開いて華道、小物づくり、コースラ、書道、グランドゴルフを楽しんでいただいています。

加えて、年に1回の地域交流会があります。活動資金は他も一緒ですが、大東市社協からの助成金以外は基本的にはボランティアの会費で賄っています。しかし交通費や切手代などに結構、経費がかかるんです。このあたりは、ちょっとしんどいところですね。

森田 「なかま」はリハビリ介助の会。大東には「はばたき会」「ぽっぽの会」というリハビリに取り組む通所者の会があって、その、約130人の会員の皆さんのお付き合いが活動の中心です。

この二つの会の集まりには、送迎バ

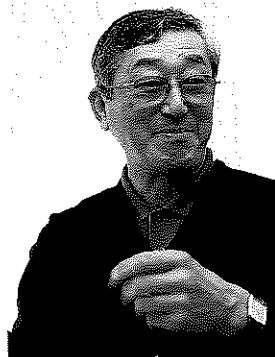
中尾 安子さん



地域の高齢者を支える
ボランティア活動



金森 賢一郎さん



司会 5つのグループの代表者の皆さんにそれぞれの活動を報告していただきましたが、続いて、連絡会の事務局の皆さんのご意見も聞かせてください。ところで、事務局の皆さんはそれぞれ5つのグループ、いずれかの会長を経験された方だとか。

金森 そうです。私は「よりそい」と「しゃぼん」の出身ですが、活動を始めたのは知人に誘われたのがきっかけでした。現役時代は公益企業のサラリーマンで、ご他聞に漏れず家庭を顧みない仕事人間だった。ボランティアの

お年寄りの「ありがとう」が 大きな励み

り。他には、グランドゴルフや野外レクリエーションを楽しんでいただいたり、クリスマス会や誕生会を催したりもしますが、今のところ主婦が中心で、男性が圧倒的に少ないのが悩みです。

森田 瑞子さん

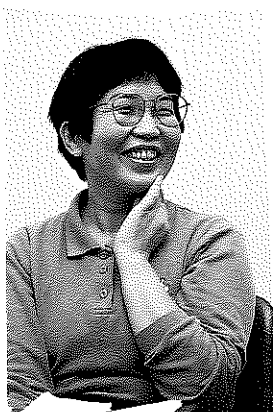


スで来る方、自分で来られる方、いろいろいらっしゃると思いますが、そんな人たちにお茶とお菓子をいただいたり、ホットバツクの片付けをした

い仕事人間だった。ボランティアの「ボ」も知らなかったから、最初は車椅子を押して街の中を歩くのに抵抗がありましたよ。

でも大したこともできないのに、お年寄りが「ありがとう」と言ってくたさる。やはり励みになりましたね。たかがこれくらいのお手伝いなのに、自分では思うんですが、喜んでくださる方がいるということが、すごく嬉しい。以来、ボランティアにハマっている(笑)。

寺岡 私は若い頃、いや今も若いつもりですが(笑)、看護婦をしていたんで



寺岡 洋子さん

す。看護婦を辞めて市の「家庭介護講習会」を受講した時、「介護と看護の違いは？」と考えたのがボランティアを始めるきっかけとなりました。

ボランティアを続けるうちに、医療は治療の現場であり、在宅は介護の現場であるという思いが強くなってきました。そして、よりご本人のためのケアに取り組みようになりました。

また事務局として、ボランティアと依頼者のコーディネートにより出会いの場を作り、それにより依頼者の自立とボランティアの生き甲斐の場を作っていました。

「ふれあい」 難病介護ボランティア 活発なレクリエーションで 交流を深める



「ふれあい」の活動は、毎月第1、第3月曜に総合福祉センターで行われる「難病者の集い」での介助がメイン。「難病者の集い」は、歩行困難、言語障害などさまざまな症状を伴うパーキンソン病の方々の集まり。お茶を出したり話しかけたりなど、集まりの雰囲気づくりも積極的に行う。ふれあいのメンバーは現在10人。利用者は30人である。

また患者、そしてその家族との交流を図るための親睦会「ハッピー会」を支援。春のお花見や、「なかま」が支援する「はばたき会」と合同のグランドゴルフ大会、野外レクリエーションのほか、リハビリテーション、入浴など毎月2回活発に活動している。代表の橋本さんは「難病に負けず生きていこうとする方々とのふれあいは、自分もまた励まされることの多い、貴重な経験です」と話す。



在宅介護ボランティア

「ほっと」

地域コミュニティの活性化に貢献

「ほっと」は地域福祉の向上をめざし、地元根ざした活動を展開する在宅介護ボランティア。活動の中心は不定期の訪問介護で、メンバーは94人。

現在、ほっとの訪問介護の利用者は25人。ほとんどが重度の障害を持つ方や寝たきりの方たちだ。外出助から話し相手まで、利用者の援助内容に合わせたボランティアを派遣している。

また市内を13地区に分け、毎年1回それぞれの地区で「地域交流会」を主宰。この会は、地域の高齢者・障害者・ボランティア・ボランティア活動を希望する人などが一堂に会する場として設定されており、講師を招いての講演やレクリエーションによる交流などを行っている。

同会は、地域で孤立してしまっている人とボランティア、或いは行政関係者との顔合わせができる貴重な場として機能。利用者が会を通じていろいろな人と顔なじみになれば、「困ったときはAさんに言えばいいんだな」などと確認することができ、利用者自身の大きな安心感につながる。さらに、公的サービスを気軽に利用するきっかけとしても成果を出しており、同会は地域コミュニティの活性化に大きな役割を果たしている。



ボランティアは、 家庭が恵まれてるから やるわけじゃない

遠藤 私はリハビリ介護の「なかま」出身なんです。実は姑を見送り、実父が痴呆になつたときに、「606会」発足の5人の皆さんに出会い、すごく助けていただいたんです。そして皆さんから、ボランティアは「人のためじゃなく自分のため」「家庭が恵まれてるからやるわけじゃない」ということを教えていただいた。そして今、庶民ですから出来る範囲のことをしてるだけなんです。少なくとも、ボランティアに関心のない方々がよく言われる「なんで私たちがしなければならぬの？」と思うことはなくなりました。

遠藤 克恵さん



子供のおむつと同じ換え方をした経験があるんです。それではいけないと思い、家庭介護の講習会を受けたのがボランティアを始めたきっかけでした。その後、実の母も亡くなり、もともと世話好きなこともあって「ほっと」にいらしていただき、気がつけば活動にのめり込んでいた（笑）。いまでは主人もあきらめて、応援してくれています。

椎山 私は毎週、火曜日に事務局の当番をしています。実は60才まで幼稚園の保育をしており、養護施設での保育も10年間経験してきました。今は主人も亡くなり自分自身が独居老人で、やれることを細々とやっているだけです。10年前に友人に「仕事の経験をボランティアで活かせば」と誘われて活動を始めるようになりました。保母時代、施設に各学校から保母の実習生としてやってくる人たちのオリエンテーションをやっていたので、そんな現役時代の経験が少しは役立っているかもしれません。

これからは健康に気をつけて出来る限り長くボランティアを続けていきたいと思っています。



椎山 真喜子さん



木本 マサ子さん



地域の高齢者を支える
ボランティア活動



小山 泰男さん



「あなたの時間を少しでも
提供してください」

小山 私はもともと技術屋で、ドラフターに向かって設計の仕事をしてきました。手先の器用さにはいささかの自信があったので、現役をリタ

イアしてからは、それで何か人様に役立つことをやりたいと思っていました。そんなときに、大東市社協のボランティアを募る看板を見た。そこには「あなたの時間を少しでも提供してください」とあって、思い切って飛び込んだのが始まりです。

今は606会のワープロ、パソコンを使い、点訳ボランティアと文化教室のリーダーもしています。ボランティアを始めて感じたのが、現役の会社員のときとは違う「生活半径の広がり」です。ボランティアの世界には、いろんな経験を持った、いろんな人がいる。会社員時代には接することのなかった素敵な人がたくさんいらっしゃる。それは驚きであり、またボランティア活動の魅力の一つだと思いますね。

司会 なるほどね。さて最後になりましたが、大東市社協ボランティアセンターの橋本さんからも一言いただけたら

すか。
橋本 平成4年からコーディネーターをさせていただいていますが、606会の皆さんには本当に助かっている。というか、助けていただいています。

皆さん、私の両親と同じ世代の方々ですが、実にエネルギーが豊富で、若々しい。そしてありがたいのは、行政の福祉サービスへの橋渡し役をしてくださっているという点です。

皆さんのボランティア活動の対象者は、いずれ行政の福祉サービスが必要とされる方々です。しかし世間にはまだまだ、行政の福祉サービスを受けることに抵抗を感じられる方が少なくありません。つまり、他人のお世話になる、ということへのためらい。それを、606会の皆さんは長年の人生経験で、実に上手に、抵抗感をやわらげていかれるんですね。そんな意味からも、大東の地域福祉には欠かせない団体だし、活動です。



橋本 博之さん

介護保険が始まり、多くの認定作業も開始されるようになりますが、そんなときには必要な、地域のお年寄り一人ひとりについての具体的な情報の、最も近くにいるのが606会の皆さんでもある。今後とも、活発な活動をぜひ続けていただきたいと思います。

司会 なるほど、同感ですね。本日は長時間、本当にありがとうございました。

リハビリ介護ボランティア 「なかま」

明るく楽しく、リハビリのお手伝い



「なかま」は、9年前に結成されたリハビリ介護のボランティアグループ。毎週月曜から金曜の午前中は、大東市立総合福祉センターで、毎週月水金の午前中は、大東市立保健医療福祉センターの機能回復訓練室で介護活動を行っている。現在利用者は130人、会のメンバーは25人。

活動は機能回復訓練に必要なセットを用意することがからスタート。訓練では、それぞれの利用者に合わせた介助を提供し、訓練後は参加者全員で体操、最後はお茶菓子で「一服し、歓談を楽しむ」。

また、活動はリハビリ介助にとまらず、利用者同士の交流を図るための会「はばたき会」を支え、行政とも一緒になってパラエティ豊かな行事を行っている。グランドゴルフ大会は、「ふれあい」が支援するハッピー会と合同で行い、サークル間の交流も深めている。



地域の高齢者を支える ボランティア活動

各地でネットワークを紡ぎ出すボランティアたち



〈泉佐野市〉

高齢者を地域で見守る 小地域ネットワーク活動

お年寄りとの絆をつくる 声掛け訪問

泉佐野市社会福祉協議会では、地域で孤立しがちな高齢者を見守り、支えていくための「小地域ネットワーク活動」を3年前からスタート。ボランティア講座を受講し、ボランティア登録を行った市民375人が、自分の住む地域で活動に参加している。

今もなお、近所同士で冠婚葬祭を手伝う習慣が残る泉佐野市は、地元意識の高い土地柄。しかし、意識的なボランティアによるネットワーク活動が「互いに助け合う」実感を育み、「地域で生きる」連帯感をさらに深めている。

日新地区で当初から活動に参加しているボランティアの西野可ほるさんは、最近、活動の継続が実を結びつつあると感じている。

「最初は、こんにちはの声掛け訪問から始めるんです。はじめて訪ねるから警戒されるのは当然なのですが、ほんの少し開いたドアの隙間からしか声が聞けなかったのが、お元気ですか」「何かお手伝いしましょうか」と声を掛け、毎週定期的に訪問を続けるうち玄関先で立ち話をするようになり、ついには部屋で世間話をしたり、悩みを聞けるような関係になる——こんな経験をたくさん重ねてきました。その方に何が必要か聞き出し、把握するには、ま

ず人間としてのつながりを結ぶことが必要。その上ではじめてどんな援助が適切か考えられるんです」。

また、この活動を通じて培われたネットワークを通じて、2年前から日新小学校児童によるお年寄りへの訪問活動も始まった。

学校行事でないにもかかわらず生徒全員が参加を希望したこの活動は、誕生月を迎えるひとり暮らしのお年寄りの自宅を、毎月第2土曜日に子ども達が温かいメッセージの入った花束を持って訪問するものだ。

「子ども達からよく聞くのは『いつも見かけるあのおじいちゃん、あそこの人やつたんか』という感想。顔だけ見知っている人がどの誰かわかれば、挨拶も交わすようになり、ひとり暮らしのお年寄りを近所が気にかけてといったつながりも生まれる。このつながりから、日新小学校の運動会にお年寄りたちが招待されるのが恒例になったり、お年寄りとお年寄りの間で文通が始まった例もあります」と西野可ほるさん。

地域の福祉力を高める ボランティア

活動の基準単位は市の小学校区。各地区の福祉委員会を推進主体に、13区のうち7地区で活動が始まっている。対象となるのは65歳以上の高齢者世帯。



小学生のお年寄り訪問

ひとり暮らしの方を中心に、対象者数は全地域で241人に上る。

日新地区では、28人のボランティアがひとり暮らしなど46の高齢者世帯をフォロー。訪問は必ず2人以上で行い、その様子をネットワーク台帳に記録し、情報を共有する。広報紙「ひまわり」も刊行。活動の問題点などについては、毎月の支部（町会）検討会で話し合い。また、各地区が集うネットワーク推進会議も隔月で行われ、すべてが支援活動へと結びつけられている。

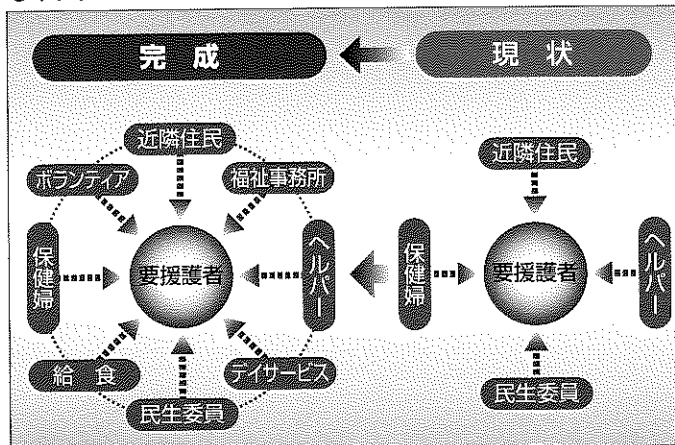
泉佐野市社協事務局長の赤坂屋利雄さんは「ネットワーク活動が始まって以来、対象者に限れば、緊急通報サービス・ヘルパー派遣・給食サービスなどの公的サービスを利用される方が、従来の50%以上増えています」と話す。「これは、ネットワーク活動が施策では拾えない実状を拾い上げている証拠でしょう。ひとり一人のお年寄りを丁寧に見守るボランティアが、需要を掘り起こし汲み上げる大切な役割を果たしています」。将来的には、対象者を中心に支援者同

地域の高齢者を支える
ボランティア活動



あいあいサロンで楽しく交流

●ネットワークシステム図



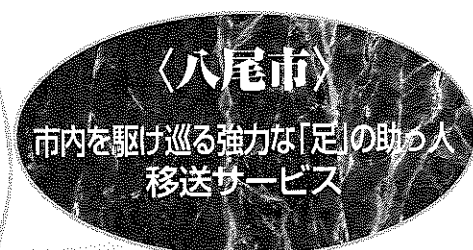
士がつながり、情報を共有することもネットワーク活動の大きな目標だ(上図)。

日新地区の福祉委員会事務局局長であり、長年同地区で民生委員を務める西野明さんは「支部会議では『給食サービスが必要としている人が、なぜ年齢が1歳足りないだけで受給できないのか』といった具体的な問題提起が、現場のボランティアからあげられるようになってきた」と話す。赤坂屋さんも「当事者の声を拾い上げるボランティアが従来の制度の見直しを促せば、今後現場の声に基づいた新しい制度が生まれる可能性もある。ボランティアが地域の福祉力を高めています」とネットワーク活動を分析する。

日新地区では、昨年10月から介護について気軽に質問したり、相談できる場所を作ろうとボランティアによる介護相談をスタート。これは「介護保険からこぼれてしまう人もすくい上げよう」という狙いがある」と、西野明さん。また「ひとり暮らしの元気な高齢者もネットワークしていききたい」と考え、当事者同士でつながることを目的に、お年寄りであれば誰でも歓迎の「あいあいサロン」を地区の公民館でスタート。さらに西野明さんは「組織に力がついてきたら、障害のある方もネットワークできれば」と考えている。

「住んで良かった町にするため」一人の不幸も見逃さない「をモットーに、熱心な活動が続けられる日新地区。『活動に関われば関わるほど』もつと必要という気持ち膨らむ。みんなが手を取り助け合うことの大切さを気づかせてくれたネットワーク活動は、この地域で生きていく私

早期からの熱心な活動で 利用者に応える



自身に必要なことであり、義務だと思っ
「んです」と語る西野可憐さん。

急速な高齢化とともに、地域ネット
ワークの存在がますます重要になりつ

八尾市社会福祉協議会が、ひとりでは外出がままならない障害者や高齢者のために、車椅子も乗降可能なリフト付き車輛による送迎活動に取り組み始めたのは4年前。地元の菊花ライオンスクラブによるリフト車の寄贈がきっかけだ。当初はリフト車を貸出ししていたが、利用者のほとんどが高齢であり、たくさん利用希望に応えきれないこともあって、ボランティアによる移送サービスを開始した。

運転ボランティアの登録者は21名。移送は必ずペアで行われるため、運転免許がなくとも助手としての登録が可能だ。月1回の定例会では、活動報告

つある現在、市民ひとり一人のボランティア活動の積み重ねが、目に見える大きな力を得つつあるようだ。

活動は朝7時からスタート。利用者の8割が重度の障害を持つ方や、一人では移動の困難な高齢者。朝早くから動き出すのは、利用者の通院に合わせ病院での待ち時間を少なくするためであり、午前中に5〜6件の送迎をこなす。活動を休止するのは日曜と年末年始だけで、希望があれば日曜でも出勤する。1日の活動が終わるのは4時半を過ぎる。

はじめて運転ボランティアをする人

利用者は利用に際して原則として1日あたり千円、半日の場合500円を負担。この経費は車輛の自動車保険や維持経費に充てられる。平成8年度の利用者は1460人、ボランティアの年間延べ人数は672人、車輛走行距離は約22148kmに上り、毎月およそ120回移送サービスが行われたことになる。

や当番のローテーション組みが行われる。メンバーはほとんどが定年退職者だが、なかには主婦や自営業者、タクシードライバー、或いは消防署職員など交代制の職場に勤める人も。2台の車輛のうち1台は遠方への送迎専用である。



この日の1品は焼き魚



リフト車を稼働中

「おすそわけ」精神で 地域の高齢者を支える

一昨年の11月、有志の女性たちで結成されたボランティアグループ「おすそわけキッチン」が活動する豊能町とさわ台周辺は、開発されて20年ほどになるニュータウン。子どもが独立し夫婦だけになった世帯や、ひとりぐらしの高齢者が目立ち始めた地域である。



〈豊能町〉 心のこもった手作り夕食 おすそわけキッチン

メンバーは現在15人。専業主婦だけでなく、自営業やアルバイトをしている人もいる。毎週1回、当番の3人が1品ずつおかずを持ち寄って夕食を車で届けている。代表の川井さんは、「ボランティア活動をしたいた気持ちはあっ

活動は「おすそわけ」の名の通り、少し多めに作った夕食を一品ずつ持ち寄り届けることで、ひとり暮らしで不自由な高齢者に喜んでもらうことを目的としている。

発起人の鳥取さんは、「知り合いの高齢女性がひとり暮らしで、様子が気になって時々夕食を届けていたんですが、一人だとしても定期的に届けられないし、先方も気づかわれます。そこで、ご近所の方に呼びかけたところ、賛同してくださる方が多くいらっしやってグループを結成することになったんです」ときっかけを語る。

メンバーは現在15人。専業主婦だけでなく、自営業やアルバイトをしている人もいる。毎週1回、当番の3人が1品ずつおかずを持ち寄って夕食を車で届けている。代表の川井さんは、「ボランティア活動をしたいた気持ちはあっ

活動は「おすそわけ」の名の通り、少し多めに作った夕食を一品ずつ持ち寄り届けることで、ひとり暮らしで不自由な高齢者に喜んでもらうことを目的としている。

発起人の鳥取さんは、「知り合いの高齢女性がひとり暮らしで、様子が気になって時々夕食を届けていたんですが、一人だとしても定期的に届けられないし、先方も気づかわれます。そこで、ご近所の方に呼びかけたところ、賛同してくださる方が多くいらっしやってグループを結成することになったんです」ときっかけを語る。

は、移送に必要な情報を知ることから始める。「利用者の自宅の場所と顔と名前、送り先、病院、それに住宅街の路地などルート把握してもらったため、新しいボランティアには必ず助手席で研修してもらいます」と代表の山本さん。メンバーの松下さんは「1日を事故なく安全に終わるのが一番大事。活動の中で利用者とのつながりが深まり、お互いを認め合う関係ができるのは、ひとつの喜びですね」と話す。

八尾市社会福祉協議会ボランティアコーディネーターの吉原さんは「ボラ

ンティアがここまで熱心に活動するのは予想外の嬉しさ。利用者や介護者の外出時の肉体的・精神的・経済的負担が大幅に軽減されたと思います。しかしボランティア頼みでなく、ガイドヘルパーなどの公的サービスももっと充実しなければなりません」と語る。将来的には「行楽など、もっと利用者とボランティアがともに楽しめる目的の活動を増やしていきたい」と考えている。活動5年目を迎え、八尾市の移送サービスは今や地域になくてはならない存在となっている。

たんですが、生活のペースを守りながらとなるとなかなか難しくして。おすそわけキッチン「は夕食を一品、というレベルだから全然無理がありません。それに、しんどいときに休んでも他のメンバーがフォローしてくれる。長続きさせるため無理をしない、というのが唯一の活動規約かも」と話す。

「準備は、当番に車の免許を持つ人を組み込み、メニューが重ならないよう電話で材料と料理方法を打ち合わせるくらい。また、作り置きでなく、その日作ったものを、必ず火を通したものを届けることが条件。特に夏は食べ物の傷みが早いので気遣いますね」。

「今お届けしている方が辛い好き嫌いがなくて、健康のため味付けを薄めにする以外は、自分の家の料理を少し多めに作っているのと同じですね」とメンバーの南部さんと平栗さん。当初は料理を食器に盛りつけていたが、返却の際、利用者に気遣わせてしまうため、現在は紙のお皿などで届けている。

「おすそわけ」の日を毎週楽しみにしている利用者は、心の込められた手作りの夕食によって地域とのつながりを感じ、「支えられている」安心感を抱いているようだ。また、メンバー同士にも、ただのご近所から地域で支え合う仲間としての新たなつながりが生まれた。「あと2名ほどならお世話できると思います。もう少し広げていきたいですね」と川井さん。「継続が何より大切」という信念に支えられたおすそわけキッチンの活動は、無理なく、ゆつくり、自分のペースで「できることから始める」好例のひとつである。

シニアボランティア公開講座

とき／3月29日(日)

午後2時～4時30分

ところ／大阪社会福祉指導センター5階ホール

内容／講演「定年後の生きがいづくり」

講師／加藤仁(ノンフィクション作家)

▽パネルディスカッション

加藤仁、高畑敬一(WACAアクティブ・

クラブ会長)、藤岡聖三(シルバー大阪21

協会会長)▽コーディネーター／浅野仁

(関西学院大学教授)

定員／200人

参加費／500円(当日受付)

主催／大阪府社会福祉協議会・大阪府ボランティ

アセンター、朝日新聞大阪厚生文化事業団

問合わせ／申し込み(先着順)

電話かFAXまたはハガキで、

大阪府ボランティアセンターへ

〒542-0065

大阪市中央区中寺1-1-54

☎06(762)9631

☎06(762)9679

ボランティアの集い

「みんな集まれボランティア」

とき／4月29日(水祝)

午前11時～午後3時

ところ／茨木市役所前中央公園北グラウンド

内容／模擬店・バザー、ミニコンサート、

各種体験コーナー、ボランティア活動の

パネル展示など

主催／茨木市ボランティア連絡会

問合わせ／茨木市ボランティアセンター

☎0726(27)0033

ボランティア養成のための特別シリーズⅡ

とき／3月14日(土)

午後1時30分～3時30分

ところ／大阪YWCA3階ホール

内容／講演会「僕の出会った人達」

講師／日比野清(大学講師、元日本ライ

トハウス視覚障害リハビリテーションセ

ンター所長)

著書に『わたしは盲導犬イエフ』

参加費／1500円

主催・申し込み／大阪YWCAリーディング・ボラ

ンティア・グループ

☎06(361)1815

☎06(361)6170

ボランティア養成のための特別シリーズⅢ

とき／3月28日(土)

午後1時30分～3時30分

ところ／大阪YWCA3階ホール

内容／「言葉はなかなか伝わらない」今時、元氣

の出る話ぐいま、田舎がいい」

講師／木割大雄(俳人、下町のプロデュ

ーサー)

《参加費・問合わせ・申込先は右に同じ》

社会貢献セミナー

「企業の社会貢献はこう変わる」

とき／3月18日(水)午後1時30分～3時

ところ／大阪商工会議所6階 ニューコクサイ

内容／講師／(社)経済団体連合会

社会本部副本部長 安斉洋一

定員／100名

参加費 無料(講師を交えた交流懇談会参加の場合

3000円)

主催・問合わせ／(財)大阪コミュニティ財団

※申し込み方法については、

☎06(944)6260

☎06(944)6261

までお問い合わせください。

BARRIER FREE '98

「高齢者・障害者の快適な生活を提案する
日本最大級の国際総合福祉機器展」

展示場内特設セミナー会場では、出品者によるプ
レゼンテーションセミナーとしてテクニカル・ワー
クショップを開講。福祉機器の利用方法や使い方の
ポイントなどを紹介するとともに、使用の際に役立
つ情報や知識を提供します。

とき／4月16日(木)～18日(土)

午前10時～午後5時

ところ／インテックス大阪6号館

入場料／無料

主催／大阪府社会福祉協議会・テレビ大阪

問合わせ／国際総合福祉機器展事務局

〒550-0014

大阪市西区北堀江1-1-25

☎06(543)2207

☎06(543)2209

第5回共生・共走マラソン

「好っきやねん、みんなで生きる」と!

サポートスタッフ募集

一人でも多くの人と「共に生きる」ことをめ
ざし、一緒に汗を流せるイベントです。会場設
営や受付、介護、後片づけなど、スタッフとし
て是非参加してください。

活動日／5月30日(土)、31日(日)、6月1日(月)

活動場所／花博記念公園・鶴見緑地

活動費／食事代支給、交通費は500円まで支給

問合わせ／申し込み

共生・共走マラソン実行委員会／

大阪障害者労働センター

☎06(761)2212 担当・鶴田

このネットワークには、現在、500余りのボランティア団体・施設等が登録しており、自宅や職場などからいつでもアクセスできるインターネット

また、ボランティア募集情報は、現在、200件余りですが、今後、いろんな新しい情報が追加されていきます。今後も、団体登録作業は継続してすすめられるので、未登録のボランティア団体は登録することができます。



大阪ボランティア
情報ネットワーク
ようこそ！

Let's ACCESS!



大阪ボランティア情報ネット

ワーク

おはようございます！

このページは、IE Ver3.02、Netscape Ver3.0以上を推奨します。

このページは、大阪府内の各分野・各地域のボランティア活動推進機関の協力で収集された、大阪府域(活動が他府県にわたるものを除く)のボランティア活動情報を提供するものです。

ご利用に際しては、

- ・ボランティア活動の推進・参加のめを目的とする。
- ・ボランティア活動への参加は、当事者間で連絡・了解の上、各自の責任のもとで行なわれる。
- ・情報の転記・転載については、提供提供団体に連絡の上で行なう。
- ・公開された情報に関する一切の責任は、提供提供団体に属する。

ことをご了承下さい。

▶ 次へ進む ▶ NEXT

★運営協議会からのお知らせ★

●ボランティア活動情報

★大阪府域(活動が他府県にわたるものを除く)の、179件のボランティア活動情報の中から、あなたにぴったりの活動を紹介します。

①新着!! ボランティア活動情報

最近1ヶ月に登録されたボランティア活動情報です。

②ボランティア活動情報の検索

活動分野、内容、日時、場所など、いろいろな条件でボランティア活動を探すことができます。

③ボランティア募集団体情報の検索

大阪府内の、ボランティアを募集する、ボランティアグループ、施設等 507団体の概要を紹介します。個々の団体の概要からその団体のボランティア活動情報も検索できます。

④団体登録について

ボランティア活動情報を提供するためには、予め団体登録が必要です。団体登録をされていない方はご登録下さい。

オープニング画面

メニュー画面

これに決まれば
問合わせ先にTEL
をして活動開始!!

ボランティア活動情報

UPDATE: 1998-01-24

大阪府ボランティアセンターの事務局ボランティアを募集

(在宅や施設での継続的なボランティアの募集)

対象・分野: ボランティア活動・市民活動全般

活動内容: 催事や講座の企画・運営、事務作業・軽作業、

取材・著述・編集・デザイン、修理・機械・コンピュータ、

運転・配達、何でも結構です。何かお手伝いしてください

日時: 長期の活動、月曜～金曜、9:00～17:00

場所: 大阪市中央区中寺 大阪府ボランティアセンター

沿線: 地下鉄谷町線 谷町9丁目から徒歩10分

募集対象: 専門学校・短期大学・大学生、成人(概ね50歳代まで)、

初心者、グループでの参加歓迎

問合せ先: TEL 06-762-9631 FAX 06-762-9679

大阪府ボランティアセンター 川口未廣さん

照会コード: 98-1

ボランティア活動情報詳細画面

<http://www.ovnet.or.jp/>



希望するものを
チェックして
検索をクリック!!

◆ 活動情報の検索条件を入力してください。

検索条件入力後、検索ボタンをクリックしてください。

●活動種類	指定なし
●対象・分野 (3つまで)	指定なし 子ども 青少年(概ね13～19歳) 高齢者 知的障害者・児
●活動内容 (3つまで)	指定なし 生活介助 外出介助 文芸・読書・遊び相手 物品収集・寄贈
●日程	単発(日にも指定) 年 月 日～年 月 日 (日付は半角で入力。年は西暦4桁で入力) 単発(相談の上決定) 長期(2つまで) 月曜日 火曜日 水曜日 木曜日
●時間	指定なし
●場所(市町村区名)	(入力された文字で、連続検索を行います)
●沿線 (2つまで)	指定なし 梅田周辺 JR環状線 JR有楽町線 JR有楽町線
●募集対象 (2つまで)	指定なし すべての対象の受け入れ可能 小学生 中学生 高校生

複数選択時は、Ctrlキーを押しながらクリックしてください。

ボランティア募集団体情報検索画面

平成10年度ボランティア 総合補償制度のご案内

ボランティア保険は
次のような
ボランティア活動中の
偶発な事故について
補償します。

①「傷害保険」

ボランティア自身がケガを
した場合

②「賠償責任保険」

対象者および第三者の身体
や財物に損害を与え、法律
上の賠償責任を負った場合

③「死亡見舞金」

ボランティア自身がボランティア活動中に死亡し、
①の「傷害保険」の給付対象にならない場合

※「死亡見舞金」は大阪府社会福祉協議会が
運営している制度です。

●加入手続きはもよりの市町村社会福祉協議会までお願いします。
●詳細についてのお問い合わせは、下記までお願いします。



大阪府社会福祉協議会・大阪府ボランティアセンター

〒542-0065 大阪府中央区中寺1-1-54

大阪社会福祉指導センター内

☎06-762-9631

ボランティア保険

ボランティアがボランティア活動中に①偶発な事故によってケガをした場合の「傷害保険」、②第三者の身体や財物に損害を与えた場合の「賠償責任保険」、③ボランティア活動中に死亡し、「傷害保険」の給付対象にならない場合の「死亡見舞金」の3つの制度がセットされています。

補償内容		補償金額			
		Aプラン		Bプラン	
補償部分	傷害部分	Cプラン(傷害部分天災担保)			
		ボランティア本人のケガ			
		賠償部分			
		死亡見舞金			
		掛金			
死亡	905.5万円	死亡	1,941.1万円	死亡	691.6万円
後遺障害	27~905.5万円	後遺障害	58~1,941.1万円	後遺障害	20~691.1万円
入院 (1日あたり)	5,000円	入院 (1日あたり)	7,000円	入院 (1日あたり)	5,000円
通院 (1日あたり)	3,000円	通院 (1日あたり)	4,500円	通院 (1日あたり)	3,000円
手術保険金 (1事故1回)	5~20万円	手術保険金 (1事故1回)	7~28万円	手術保険金 (1事故1回)	5~20万円
対人対物共通	最高 3億円 (免責1千円)	最高 3億円 (免責1千円)	最高 3億円 (免責1千円)	最高 3億円 (免責1千円)	最高 3億円 (免責1千円)
本人の死亡	死亡 30万円	死亡 30万円	死亡 30万円	死亡 30万円	死亡 30万円
ボランティア1名 (年間)	300円 ※中途加入の場合も300円	ボランティア1名 (年間)	500円 ※中途加入の場合も500円	ボランティア1名 (年間)	2,000円 ※中途加入の場合も2,000円

		子供保険		ボランティア活動行事保険				
補償内容		地域で活動している子供を中心としたグループが主催する行事参加中に参加者である子供が偶然な事故によってケガをした場合の「傷害保険」の制度です。 (宿泊をとまなう行事は対象外ですから、 右の活動行事保険(Ⅱ型)で加入して下さい。)		ボランティア行事参加中に、①参加者が偶然な事故によってケガをした場合の「傷害保険」と②主催者または、参加者が第三者(他の参加者も含みます)の身体や財物に損害を与えた場合の「賠償責任保険」の2つ制度がセットされています。				
補償金額	傷害部分	子供本人のケガ	死 亡	500万円	参加者本人のケガ	死 亡	500万円	●キャンプ参加者が転倒して骨折した。 ●運動会参加者が足をねんざした。
			後遺障害	15~500万円		後遺障害	15~500万円	
			入院(1日あたり)	3,000円		入院(1日あたり)	3,000円	
			通院(1日あたり)	2,000円		通院(1日あたり)	2,000円	
			手術保険金(1事故1回)	3~12万円		手術保険金(1事故1回)	3~12万円	
	賠償部分				対人	1名あたり 最高 1億円 1事故あたり 最高 2億円	●ハイキング参加中、参加者が誤って後続の参加者にケガをさせた。	
対物			1事故あたり 最高 500万円	●キャンプ参加中、誤って他人の用具を壊してしまった。				
	見舞金	死 亡						
掛金		子供1名あたり(年間)	200円		Ⅰ型(宿泊なし)→名簿不要		Ⅱ型(宿泊あり)→名簿必要	
			※中途加入の場合も200円	30円	参加者1名につき	1泊2日	283円	
						2泊3日	291円	
						3泊4日	299円	
	4泊5日	370円						
				※ただし、1回の行事につき50名以上で申し込んで下さい。				

有償活動保険			
補償内容			
この保険に加入した有償活動従事者が、活動中に①偶然な事故によってケガをした場合の「傷害保険」、②活動の対象となる人やそれ以外の第三者の身体や財物に損害を与えた場合の「賠償責任保険」がセットされています。			
補償金額	Aプラン		Bプラン
	死 亡 500万円 後遺障害 15~500万円 入院(1日あたり) 3,500円 通院(1日あたり) 2,000円 手術保険金(1事故1回) 3.5~14万円		
	対人事故 1名あたり最高 6,000万円 1事故あたり最高 1億2,000万円		
	対物事故 1事故あたり最高 500万円		
掛金	活動従事者1名あたり(年間) 1,000円 ※中途加入の場合も1,000円		
		活動従事者1名あたり(年間) 1,500円 ※中途加入の場合も1,500円	

移送サービス交通傷害保険	
補償内容・具体例	
ボランティア活動やディサービス事業で、その利用者(受益者)が、病院送迎等の移送サービス中の交通事故によりケガをした場合に補償します。 ●入浴サービスの為、利用者を自転車で移送中、交通事故により利用者がケガをした。 ●ボランティア活動の旅行行事で電車に乗っている際、急停車により利用者が転倒、ケガをした。 ●利用者が車イスに搭乗中、車イスが暴走し、転倒、骨折をした。	
補償金額	死 亡 300万円
	後遺障害 9~300万円
	入院(1日あたり) 3,000円
	通院(1日あたり) 2,000円
掛金	手術保険金(1事故1回) 3~12万円
	※利用者の方の平均サービス利用日数等により異なります。 詳しくは右ページの連絡先までお訪ね下さい。

はじめよう…つづけよう…わすれない

第5回豊中ボランティアフェスティバル

2月15日、ボランティアセンター開設10周年を記念して「第5回豊中ボランティアフェスティバル」が盛大に開催されました。メイン会場となったアクア文化ホールでは、コーラス、ボランティア表彰、福祉体験作文の朗読などのあと、地域ボランティア活動推進委員会の吉田芳子さんが基調報告。豊中ボランティアセンター10年の歩みを振り返り、今後のさらなる活動呼びかけられました。引き続き、企業の社会貢献担当者も交えたパネルディスカッションや、銭太鼓、いきいき歌体操、グループ対抗クイズ、手づくり介護用品ファッションショーなどの楽しい催しも繰り広げられました。

また当日は、30を超える市社協ボランティア団体連絡会加盟グループが、手づくりの「のぼり」を携えて参加。その出来栄を競う「のぼりコンテスト」も行われ、会場の雰囲気も最高潮。表紙の写真は、その「のぼり」を手し、皆さんに大集合していただいたものです。

スタンプラリーや、さまざまな体験コーナーも数多く設けられたフェスティバルは、会場と一体となった手話コーラスでエンディング。豊中市民のボランティアパワーを大いにアピールした一日となりました。

